

CHAPTER

03

スクール・ポリシーと ルーブリックの効果的な運用事例

ここまで、全国の私立学校における建学の精神の共有状況、スクール・ポリシーの作成状況、総合的な探究の時間の実施状況について確認してきました。

その中には、いち早くスクール・ポリシーとルーブリックの作成に取り組み、試行錯誤を経て効果的な運用に至って

いる学校もあります。

本節では、その代表的な事例として、東日本から福島県の学校法人石川高等学校・石川義塾中学校、西日本から広島県の修道中学校・修道高等学校を紹介します。



学校法人石川高等学校・石川義塾中学校

〒963-7853 福島県石川郡石川町大室502 TEL.0247-26-5151
 高校：http://ishikawa-gijyuku.ac.jp/high/ 中学：http://ishikawa-gijyuku.ac.jp/junior/

同校は、明治25年6月5日、私立石川義塾という名称で創立された。当時、教育を受ける機会に恵まれなかったこの地方の青少年にその機会を与え、空しく埋もれていく才能を掘り起こし、将来、国家、社会の発展に貢献する有為な人材を育成するためだった。令和6年度で132周年を迎える福島県内最古の私学。これま「行学一如」の建学の精神のもと、時代に先駆けた教育にチャレンジし続けてきた。現在も建学の精神に基づく価値観と7つの習慣Jを通して身につく人間

力をルーブリックにより可視化するなどして、学力と人間力を備えたバランスのとれた人材の育成を目指している。

スクールカラーは文武両道で、難関大学合格を目指す一方で、部活動の強化を図っており、多くの部が全国大会に出場、優勝を果たしている。

コロナ禍の一斉休暇中には、いち早くオンライン授業を実施し、現在はICT教育、探究型授業の推進に取り組んでいる。

建学の精神を基盤としたルーブリックの作成と実践



学校法人石川高等学校・
石川義塾中学校
理事長・校長
森 涼 先生

本校の教育方針の一つに、学力の向上と人間力の向上を図り、バランスの取れた人材育成を目指す、というものがあります。人間力を向上させる手段として、学校行事や部活動などの特別活動、さらに本校独自のプログラムである「7つの習慣」という授業が挙げられます。これらのツールを通じて、生徒たちは人間力を高めることが期待されていますが、その成長度を測る基準がこれまで本校には存在しませんでした。学力の伸長度は偏差値や点数で客観的に確認できますが、人間力の成長度は主観に頼らざるを得ず、これは多くの学校で共通の課題ではないでしょうか。このような状況に対応するため、本校では『ルーブリック評価』を導入し、オリジナルのルーブリックを作成・実践することで、人間力の成長度を評価・確認することを試みたのです。

ルーブリックの作成にあたっては、校長のトップダウンの指示のもと、プロジェクトメンバーを選定しました。さまざまな年齢層から発想豊かな教員を選し、10名程度のメンバーで構成されました。もちろん私自身もメンバーに加わり、話し合いを進めました。本校のルーブリックは20項目にわたり、そのうち10項目は建学の精神のエキスを反映したものであり、残りの10項目はこれからの変化の激しい社会を生き抜くために必要であろうと思われるテーマを選定しました。建学の精神の10項目は、卒業時に身につけるべき内容であり、グラジュエーション・ポリ

シーとリンクしていくものです。

建学の精神のルーブリック評価を実施する以前は、建学の精神は入学後の校長訓話で解説する程度で、生徒たちに浸透しにくいものでした。しかし、定期的にルーブリック評価を行うことで、建学の精神の理解が深まり、生徒たちや教員間で日常的に使用されるようになりました。学校行事や生徒会長の挨拶の中でも建学の精神が頻繁に言及されるようになっていきます。ルーブリック評価を通して、メタ認知することにより、自分自身の状態を客観的に判断し、次に目指すべき目標を明確にするという利点があります。さらに、生徒手帳にルーブリックを掲載し、生徒は自己評価や目標設定に活用しています。また、ルーブリック結果は保護者にも共有され、個票として成績表と共に郵送されているほか、各学校行事の振り返りや学びの記録にも活用され、生徒は成長を視覚化しやすくなっています。入学後からのルーブリック評価を生徒や保護者に伝えることで、本人だけでなく家庭との連携も図ることができる、というメリットがあります。本校では、ルーブリック評価の際には必ず担任が指導に加わり、教員間の目線合わせにも効果を発揮しています。教員間においても、教育方針の捉え方にはばらつきがありますが、ルーブリックを定めることで目指すべき方向が明確になるといえます。

建学の精神の10項目のルーブリックは不易なものであり、どんなに時代が変わろうとも変わらないものですが、生きる力の10項目については、時代や社会の変化に応じて軌道修正が必要です。人間教育や人づくり教育を掲げる学校は多いですが、その根拠を問われると、言葉に詰まる場合があるかと思います。しかし、ルーブリックの実施により、教育方針を具体的に裏付ける根拠となることは火を見るよりも明かですし、私立学校の真髄ともいえる『建学の精神の具現化』に大変有効かと思われます。是非本校の事例を参考にされ、貴校独自のルーブリックを作成されてはいかがでしょうかと思います。

School Plicy 〈スクール・ポリシー〉

スクール・ポリシーとは、どのような資質・能力をどのようなカリキュラムで育成するのかなどを示した教育活動の方針です。

アドミッション・ポリシー 〈本校が求める生徒像〉

本校の教育方針は、建学の精神に従い、個性・能力・人格の育成をはかり、国家・社会のために貢献しう有為な人材を育成することです。将来、グローバルな世界やローカルな地域の様々なシーンで活躍できるグローバル・リーダーの育成を目指して取り組んでおります。そのために、本校では次のような生徒を求めています。

1. 学習、部活動、特別活動、生徒会活動など様々な活動の中で、リーダーとして取り組もうとする生徒。
2. 学ぶことへの自覚と情熱があり、自分の夢や目標に向けて積極的に取り組もうとする生徒。
3. 基本的な生活習慣が確立され、誠実で礼儀正しい生徒。
4. 正義感が強く、思いやりがあり、他人との信頼関係を大事にできる生徒。
5. 将来、社会のリーダーとして確固たる信念を持ち、活躍が期待できる生徒。

カリキュラム・ポリシー 〈教育課程の方針〉

①授業を通しての育成(観点別評価)

1. 人生を成功者へと導く『7つの習慣』
2. 人間力を見える化し、成長を促す本校独自のルーブリック

②行事を通しての育成

3. ICT 教育の強化と充実したオンライン授業
4. 課題解決能力を育成する「探究学習」

③特色ある独自の教育プログラム

グラデュエーション・ポリシー 〈育成に関する方針〉

建学の精神に基づく価値観の育成

- 1 礼儀を重んじる心
- 2 他者を思いやる心
- 3 高みを目指してチャレンジする心
- 4 勤勉さを大切にする心
- 5 先人を敬う心
- 6 後進を慈しむ心
- 7 自ら学ぶ心
- 8 進取の精神を重んじる心
- 9 社会に貢献しようとする心
- 10 グローカル・リーダーを目指す心

生きる力を育てるスキル(能力)の育成

- 11 読書する力
- 12 集中して思考する力
- 13 データ〈模試・定期試験など〉と向き合う力
- 14 人間〈他者〉を観察する力〈他者を理解する力〉
- 15 自己の目標実現に向けた計画的な学習プランを作る力
- 16 有言実行する力
- 17 自己決定する力
- 18 情報を活用〈収集〉する力
- 19 論理的に表現する力
- 20 表情、身振りなど身体表現の力

グローバル・リーダーとして活躍できる人材となる

(出典：学校法人石川義塾 学校法人石川高等学校 2025 School Guide 一部編集)

学校法人石川高等学校・石川義塾中学校 補足資料

学校法人石川高等学校・石川義塾中学校では、「建学の精神に基づく価値観の育成」と「生きる力を育てるスキル(能力)の育成」の2領域に基づき、ルーブリックが構築されています。

それぞれの領域は10項目で構成されており、生徒の学びの姿勢やスキルを多面的に評価する仕組みになっています。

1 建学の精神に基づくルーブリック

この領域では、生徒が建学の精神「行学一如」(学んでそれを実践してこそ、本来の学問の意味がある)を体現するために必要な資質・能力の内、特に「心の成長」を評価する項目で構成されています。

例えば「自ら学ぶ心」では、主体的な学びを通じて自己実現を目指す姿勢を評価しています。特徴

は、苦手なテーマへの継続的挑戦を最上位の評価とする点にあり、生徒は、与えられた課題を超えて主体性を発揮し、最終的には関心の有無を問わず積極的に取り組む力を養うことを促されています。自己の限界を乗り越える学びの姿勢を促すことで、建学の精神の具現化が目指されています。

建学の精神に基づくルーブリックの一例

テーマ	5	4	3	2	1
自ら学ぶ心	自らの夢の実現に向かって、苦手なテーマでも能動的かつ継続的に取り組むことができる。	関心のあることであれば、主体的かつ継続的に取り組むことができる。	時折、与えられた課題以上の取り組みができるが、その状態を続けることができない。	与えられた課題はほぼやることができる。	課題と向き合おうとしないことが多い。
テーマ	5	4	3	2	1
先人を敬う心	4までの段階をクリアした上で(生き方の)目標とする先人が一人以上存在する。	どのような場面でも誰に対しても目上の人意見に素直に耳を傾けることができる。	特定の(自分が信頼する)目上の人意見は素直に聞くことができる。	目上の人を侮辱するような言動はほとんどないが、目上の人意見に素直に耳を傾けることも少ない。	目上の人を侮辱するような言動をすることが多い。

2

生きる力を育てるルーブリック

この領域では、生徒が社会で生き抜くために必要なスキルの育成を目的とした評価項目で構成されています。「集中して思考する力」、「計画的な学習プランを作る力」、「論理的に表現する力」など、実践的な能力の成長が評価の対象です。これらのスキルを身につけることで、自己の限界を乗り越え、より高い目標に向かって努力する姿勢を養うことが促されています。



生きる力を育てるルーブリックの一例

テーマ	5	4	3	2	1
集中して 思考する 力	自分自身が集中した思考を持続させるだけでなく、周囲のメンバーに対しても集中力を高めるような働きかけをすることが多くある。	周囲の環境にほとんど影響されことなく、多くのテーマ、領域で集中した思考を持続させることができる。	自分自身の興味や関心に関係なく、自分が取り組むべきテーマや領域であれば集中した思考を持続することができるが、その集中度は周囲の環境に左右されることがある。	好きな科目の授業や部活動など、自分が興味や関心を強く持つ領域であれば、集中した時間を持つことができる。	集中した思考を持続する(一時間以上)ことが非常に少ない(授業中でも集中していないことが非常に多い)。



3

学校行事とルーブリック

同校ではさらに、各活動・行事を通して育成する資質・能力を以下の表のようにまとめ、生徒手帳に掲載されています。ルーブリックの評価項目と学校行事を関連づけることで、「この学校行事の意義は何か」を意識して、生徒も教員も学校行事に取り組むことが可能となっています。

各活動・行事で育成する資質・能力が明確化さ

れていることで、生徒も教員も常に教育目標を意識して能動的に学校行事に関わる姿勢が促されます。また振り返りの機会も設定されているため、生徒自身は自らの成長や課題を客観的に把握できるほか、教員の支援体制の連携・強化にもつながり、学校全体の教育の質を高める大きな要因となっています。

生徒手帳からの抜粋

月		実施学年						建学の精神に基づく資質									生きる力を育てる能力(スキル)											
		中学			高校			品性		質実剛健		魚水		創造的探究心		行学一如		思考力		分析力		企画力		判断力		表現力		
		中1	中2	中3	高1	高2	高3	礼儀	思いやり	チャレンジ	勤勉	先人を敬う	後進を慈しむ	自ら学ぶ	進取の精神	社会貢献	グローバル・リーダー	読書量	集中力	データとの向き合い方	人間を観察する力	計画的な学習プラン	有言実行	自己の決定度合い	情報を活用する力	表現内容の論理性	身体表現スキル	
4	始業式・着任式		●	●		●	●	★	★			★	★						★									
	入学式	●			●			★	★			★	★					★										
	対面式	●	●	●	●	●	●	★				★	★					★		★								
	高3ガイダンス						●							★				★			★							
	新入生歓迎会	●	●	●	●	●	●	★	★			★	★			★		★		★					★		★	
	学校長訓話	●			●			★				★		★		★		★										
	規律指導				●			★										★										

日本の美風を継承する奇跡の私学

2024年6月に、日本私学教育研究所の私学経営研修会の学校視察で、福島県の学校法人石川高等学校・石川義塾中学校(以下学法石川と記載)にお邪魔しました。校長の森先生とは、以前から面識があり、私(広石)は、学法石川の建学の精神を生かすユニークな取り組みに以前から注目し、森先生に許可を頂き、各種の研修会や講演で、お話しさせていただいていました。そのため今回の訪問は、長年の夢が叶ったものでした。

郡山から車で1時間ほどかかる山間部の石川町(人口1.5万人ほど)に学法石川はあります。石川町は、全国の地方同様に急速な過疎化、高齢化などの課題を抱えた田舎町(実際、県立高校は定員割れ)です。現地に実際に来て、地方独特の寂れた街並みを眺めた時に、地方の置かれている厳しい現状が、リアルに感じられました。

しかし、この小さな田舎町にある学法石川には、東北地方を中心に全国から入学希望者が殺到し、受験生は過去10年、専願率がほぼ100%という実績を誇っています。この「奇跡」とも呼ぶべき現象は、学法石川が持つ「私立学校独自の魅力」がもたらしているものです。

学校視察では、ICT関連設備、スポーツ施設、寄宿舎の充実、ロボットを用いたSTEAM教育の推進、米国の学習教材(7つの習慣J)を用いた汎用的能力の育成など、まさに先進的な教育活動の数々を体験することがで



きました。地方という不利(ディスアドバンテージ)を跳ね返すために、(同地域にある全国1位の八幡屋という名湯旅館と同様に)先進的な試みにリソースを注ぎ込む(リスクテイク)挑戦的な姿勢に、敬意を感じることを禁じ得なかったというのが、私の正直な感想でした。

その様な先進的な教育活動が前面に見えるのですが、実は、私個人が何より感銘を受けたことは、「建学の精神」が、普段の教育活動に定着している。すなわち「私学らしい教育の具現化」がなされている教育実態の方でした。



写真は、その学校視察の際に私が撮影したものです。講堂や体育館に建学の精神や創立者の写真を掲示することは、一般的に多くの私立学校でも見られるものです。一方、学法石川では、すべての教室の前方の上部(黒板の上)に建学の精神が、掲示されています。ノートPCを使い、米国製の学習教材を用いて、先進的な汎用的スキル教育を展開している教室に、明治時代から継承されてきた「行学一如」という建学の精神(創立者 森 嘉種先生の志)が求める精神的修養項目(誠実と勤勉を重んじる、など)が自然と目に入る位置に掲示してありました。

私は、この学校視察の際に、学法石川という私立学校は「日本の美風を継承する奇跡の私立学校」だという強烈な印象を持ちました。学法石川の本当の魅力は、革新的



な教育活動への挑戦の数々というよりも、実は、その挑戦を支える精神性であり、本質を求める誠実さ、すなわち「着飾ったり、見た目を取り繕ったりするのではなく、中身、本質を磨く精神的伝統」である美風(森校長の普段の佇まいにも感じられる)を常に大切にしているその姿勢にこそ強みがあると確信しました。

学法石川で、創立以来、大切にしてきた「建学の精神」を普段使いにするために、10年ほど前に開発されたものが、グランドループリック(学法石川では、建学の精神ループリック、生きる力のループリックと呼称)です。後日、森校長にインタビューをさせていただき、このループリックの作成の経緯や活用法、その効果などをお聞きました。その概要と解説を以下に記します。

森校長のお話によると建学の精神ループリックの作成は、10年前の平成27年(2015年)ということです。日本私学教育研究所の前所長の中川武夫先生は、当時よく講演で「建学の精神は、額縁に入れたままではダメです。これを普段使いにすること、そのことで生徒が成長すること、それが私立学校の使命です」と言われていました。その話に森校長自身が感銘を受けていたことと、授業アンケートで付き合いのある教育関連企業から「学校の魅力化につながる独自の教育プログラムを構想されてはいかがか」といったアドバイスを受けたことが偶然重なり、森校長が学校独自の人間力の成長度を可視化できるループリックの作成の決断をされ、校長ご自身がリーダーとなり

作成ワーキングを学内で結成されということでした。私個人も、前々から中川先生には、私立学校の本質的な良さについて学ばせていただいていた経験があり、その話(私立学校が大切にすべきこと)では、話が太に盛り上がりしました。

森先生ご自身がチームリーダーとして10名ほどのメンバーを指名し、チームで何度も検討を重ねた結果、私立学校として普遍的に大切にしなければいけない教育目標を「建学の精神ループリック」として定めるとともに、今の時代に必要とされている資質・能力を意識するための教育目標を「生きる力のループリック」として定める、つまり全体の教育目標を2つのループリック(普遍的に大切なことを意識するループリックと時代の要請する力を意識するループリック)で構成することになったとのことでした。

確かに、私立学校としての「建学の精神」は普遍的な人間価値を表したものですが、一方でコンピテンシーや社会人基礎力などと表現される資質・能力に関しては、時代によって求められる資質・能力の内実は変わりうるものです。その意味では、グランドループリックを、普遍的な建学の精神に関連する学習目標と、可変的な時代が求める資質・能力に関連する学習目標で構成するというアイデアは理にかなっているといえます。

具体的な作成工程としては、①建学の精神8項目から5項目の領域を選ぶ。②それぞれの領域から2つのテーマを設定する。③全部で10項目のテーマを選ぶ。④それぞれのテーマにおけるループリックの5段階の評価基準を作成する。といった手順で行われたそうです。そうして作成されたループリックの原案は、先ほどの教育関連企業の助言を得ると同時に、作成した各項目の5段階のループリック評価が、全てのクラス(コース)の生徒にとって適正であるかどうかを検証するため、各コースのクラス代表により、実際にループリックによる自己評価を実施(試行)されたそうです。そういう検証を重ねながら、ループリック評価の学校の平均値が「2.5」(中程度)になるように評価基準(行動の具体的な記述)を再度調整されたということでした。



一部の優秀な生徒だけではなく、学校に通う全校生徒が、成長を実感できるように伸び代を十分に確保できるようルーブリックの基準(行動の具体的記述)を何度も調整するという姿勢(この作業を教育学では、モデレーションと言います)は、すべての生徒に成長の実感を体験してもらい、それを機に自己肯定感を育み、成長へ向かうマインドを育成したいという学法石川の教育愛が感じられるお話でした。

ルーブリックの活用に関しては、森校長も紹介されているように、「定期的にルーブリック評価を行うことで、建学の精神の理解を深めると共に、生徒手帳にルーブリックを掲載し、ルーブリック評価を通して、生徒が自分自身の状態を判断し、次に目指すべき目標を設定するといったメタ認知の機会を提供しています」ということでした。

さらに、ルーブリック結果は成績表と共に郵送され、保護者と共有されており、また、補足資料に掲載したように各学校行事の振り返りや学びの記録にも活用されています。私学の使命である建学の精神や、私立学校が求めるスクール・ポリシーを具体的に反映したルーブリックを作成・共有し、それを普段の教育活動で、多様な形で活用されていることが確認できるお話でした。

ルーブリックの活用によって見られた効果についてお聞きしたところ、教員、生徒、保護者、入学希望者それぞれの視点から以下の様な効果が期待できるとのお話でした。

教員集団: ルーブリックを活用することで、①教育目標に対する教員間のブレを小さくすることができる。②自校の教育方針を明確化することができる。③生徒の自己評価結果の分布をチェックすることで教育活動の有効性を確認することができる。④ルーブリックの個票を通して、生徒個人の成長(人間力の向上)を確認することができる。⑤クラス全体のデータも出るので、他のクラスと比較もできる。

生徒: ルーブリックの効果として、①ルーブリックの個票で、自分自身の成長(人間力の向上)を確認することができるようになった。②メタ認知することで、生徒一人ひとり

の状況判断能力や課題解決能力の向上が期待できる。

保護者: ①ルーブリックの自己評価結果を通知することで、ルーブリック個票で、子どもの成長(人間力の向上)を確認する(教師と共有する)ことができる。

入学希望者: ①他校にはない本校独自のルーブリックで、自分自身の人間力の向上を期待することができ、本校の独自性をアピールできる。

ルーブリックの活用(運用)で工夫されていることはありますか、という質問には、「教員のルーブリックに関する理解を進めるために、校内研修(新人研修含む)を実施するとともに、生徒の理解を促すために、ルーブリックによる自己評価を行う際には、担任教諭が指導助言しながら生徒がアンケートに答えるというスタイルをとって、教員と生徒が共に内容の理解を深めている」とのことでした。

また、「建学の精神のルーブリック」(心、価値観に関するもの)と「生きる力のルーブリック」(汎用的スキルに関するもの)で若干内容が重複するように感じますが、この点についてのお考えを聞いたところ、「建学の精神はまさに本校教育の原点であり、卒業までに生徒に身に付けさせたい人間力です。一方生きる力は、現代社会に生きる生徒にとって今必要とされるスキル(能力)と捉えており、建学の精神とともに身に付けさせたい人間力です。建学の精神を具現化するためには、内容が重複することもあると考えています」と生徒の成長にとってどちらも大切なものであり、多少の重複はかまわないとお考えの様でした。

さらに、「二つのルーブリックの評価の観点を合わせると20項目になり、評価項目数が多すぎるように感じますが、いかがでしょうか」という私の少し意地悪な質問に対しては、「すべて、生徒の成長を見取るために必要不可欠なものばかりですので、多いとは思っていません」「生徒は、生徒手帳で常に携帯し、普段使いで用いており、暗記の必要性はないので、十分に機能しています」とのお答えでした。

さらに、「ルーブリックの作成・共有、活用によってもたらされた効果について具体的に挙げてください」という質問に対しては、①ルーブリックに記載されている「同じ言葉」「同じ認識」を用いて、ルーブリック評価結果を生徒や保護者に伝えることで、本人だけでなく家庭と学校との連携が、以前よりもスムーズに意思疎通ができる様になった、②教科間、学年間での教員集団が、生徒の成長や課題を話すときに、「同じ言葉」「同じ認識」を共有することで、教員間の目線合わせにも役立っている、とのことでした。

「はじめに」で書きましたように、ルーブリックは、生徒の「現在地を確認し、次に進むべき道を示す地図」の機能が期待できるツールです。それを生徒自身が使って自分の現在地と、次に進むべき方向を確認することは大切ですが、生徒の学び(歩み)を支援する保護者や教師が同じ地図(ルーブリック)を用いて、生徒の現在地を確認できるようになり、生徒の歩みを支援する関係者の認識合わせに役立っていることが、インタビューでのお答えから確認できました。

森校長のお言葉にあるように、「人間教育や人づくり教育を掲げる学校は多いが、その根拠を問われると、言葉に詰まる」私立学校もあるかと思います。私立学校の先生方が、生徒の目指すべき成長のベクトルを共有し、保護者と連携して生徒の歩みを力強く支援できるツールとして、そして何より、生徒自身が自らの歩み(成長)の現在地を知り、次に向かう目標を意識できる「学びの地図」としてルーブリックを作成・共有・活用する意義が、十分に伝わるインタビューとなりました。

ここで改めて学法石川の建学の精神ルーブリックを概観すると、全国に先んじて私学の教育方針を具現化するグランドルーブリックに取り組まれた先駆者として、非常に個性的なルーブリックであることが注目されます。例えば、「魚水」(先人を敬い、後進を慈しむ)を教育理念に掲げられている学法石川では、他の高校ではほとんど見られない「先人を敬う心」などの礼儀、品性といった人間教育

の根幹に関わる「心の成長」に関するルーブリック評価項目が多数あります。儒学の教えである「行学一如」を掲げられ、日本民族が長年大切にしてきた「愛情や礼儀を重んじる伝統的な美風」を反映した素晴らしい教育方針であり、私学教育で最も大切な「心を育む教育」に取り組まれていることが理解できます。

余談を挟むと、学法石川への学校視察前夜の私学経営研修会の懇親会では、福島県の名だたる銘酒を私たち参加者は頂くことができました。どれもが個性的なのですが、しかし同時にどれも奇をてらわずに「杜氏の手間をかけた丁寧な仕込み」を感じることができる感動的なほどに繊細で美味しい日本酒でした。目立つことではなく、誠実に実直に取り組む福島風土を、人造り(教育)だけではなく、酒造りにも十分に感じられた忘れられない出来事でした。

ルーブリックの話に戻しますと、模範やモデルとなる既存のルーブリックがない10年前の段階で、全国に先駆けてグランドルーブリックを作成された学法石川は、先駆者だからこそ、どこにもない個性的な教育方針を掲げられており、日本がずっと大切にしてきた精神性(心の教育)を掲げられた建学の精神ルーブリックは、私学らしい全人的教育の一つの代表事例だといえるでしょう。

インタビューの最後に、「ルーブリックの導入によって、学校にもたらされた変化はどのようなものでしょうか」という私の質問に対しては、森校長からは「本校の創立者が掲げた建学の精神を、より具体的に実生活の中で具現化することができ、教員はもちろん、生徒たちにも、より具体的に建学の精神を浸透させることができています」との明快なご回答をいただきました。建学の精神を日常の教育活動で多様な形で具現化されているその誠実な日々取り組みこそが「わが国の美風を継承する奇跡の私立学校」を生み出している理由であると納得できるインタビューとなりました。